

怪談春  
夜  
音  
全

13  
3068





特 へ13  
3068

へ13  
3068

藏 号 第 藤

讀書心得之記

- 一可成丁寧ニ讀ベキ事
- 一破損及塗黒スベカラズ
- 一又貸ハ一切嚴禁之事
- 一火ノ上ニテ心ズ讀ベカラズ
- 一讀書中中央迄讀候節  
ハ心ズ寐ヲ入置ベシ決シテ  
本ヲ折ベカラズ

右之條角々相守可申者也

藤井氏藏書

書 卷 井

氏之記

# 怪談

## 春雛鳥

林屋正藏作  
五雲亭貞秀画

全四冊 上乃卷  
日本橋坂本町 福川堂版



戊戌 孟春 新刻

吉原の山口から行當りか林業山菜場助の川只車並び不  
 成田山玄の長きの一ヶ花街の因て高尾の徳と板元すめられ  
 早のころあふ林屋の筆の雨も内落の世話を離るぬ作者有笑  
 知しき文別ぬ八文字屋自笑が口調のうらむをまてて近頃  
 全歳無の人よ似づくかおもむく向菊初着紫松とおのれの名ふ  
 阿のころな名香ふよとて事と發し虎とむ毛化物をのれに  
 帯て達染孔雀深淵唱とて消くゆく仁本をうて大はもたき  
 おれと貞と秀と二人りお懐を蕨者めく繪を因りて一組  
 草紙とあし事の由縁をあらまてて柳の亭出口は元とて

天保戊戌春

種彦





室徳之頃之  
歌舞妓役者  
袖崎  
文弥



舞子  
花咲歌門



そのまゝに... (Vertical text column on the top left of the illustration)

そのまゝに... (Vertical text column on the top right of the illustration)

そのまゝに... (Vertical text column on the middle left of the illustration)

そのまゝに... (Vertical text column on the middle right of the illustration)

そのまゝに... (Vertical text column on the bottom left of the illustration)

そのまゝに... (Vertical text column on the bottom right of the illustration)



そのまゝに... (Vertical text column on the top left of the illustration)

そのまゝに... (Vertical text column on the top right of the illustration)

そのまゝに... (Vertical text column on the middle left of the illustration)

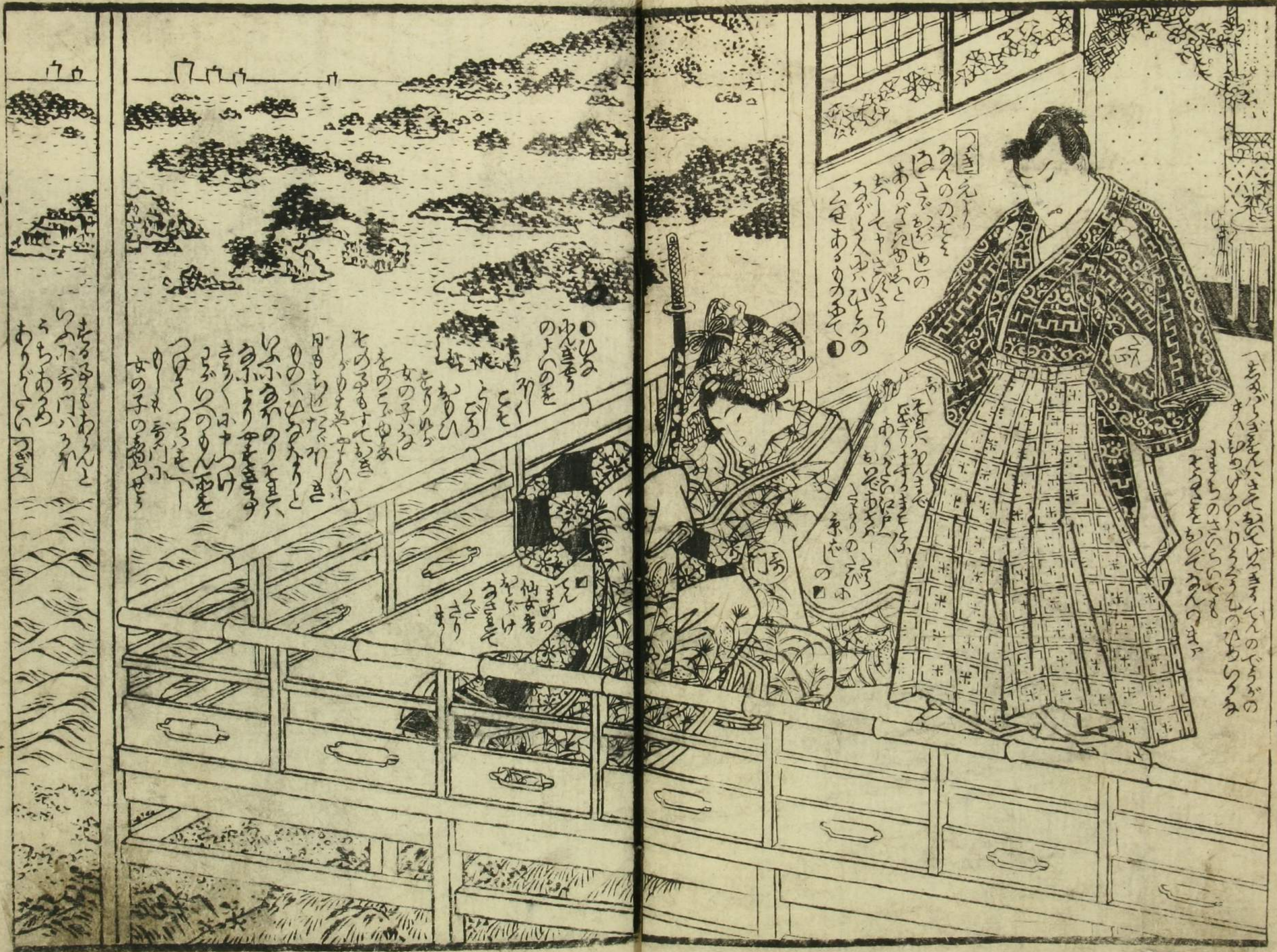
そのまゝに... (Vertical text column on the middle right of the illustration)

そのまゝに... (Vertical text column on the bottom left of the illustration)

そのまゝに... (Vertical text column on the bottom right of the illustration)

そのまゝに... (Vertical text column on the right edge of the page)





いづれ

まをりあはんと  
いふ門はうか  
らちあは  
わりのい

ゆひの  
のよのよ  
女の子  
そのま  
月より  
いふあ  
まより  
まら  
女の  
まら

まの  
仙女  
まら

あきの  
あきの  
あきの  
あきの  
あきの

あきの  
あきの  
あきの  
あきの  
あきの

あきの  
あきの  
あきの  
あきの  
あきの

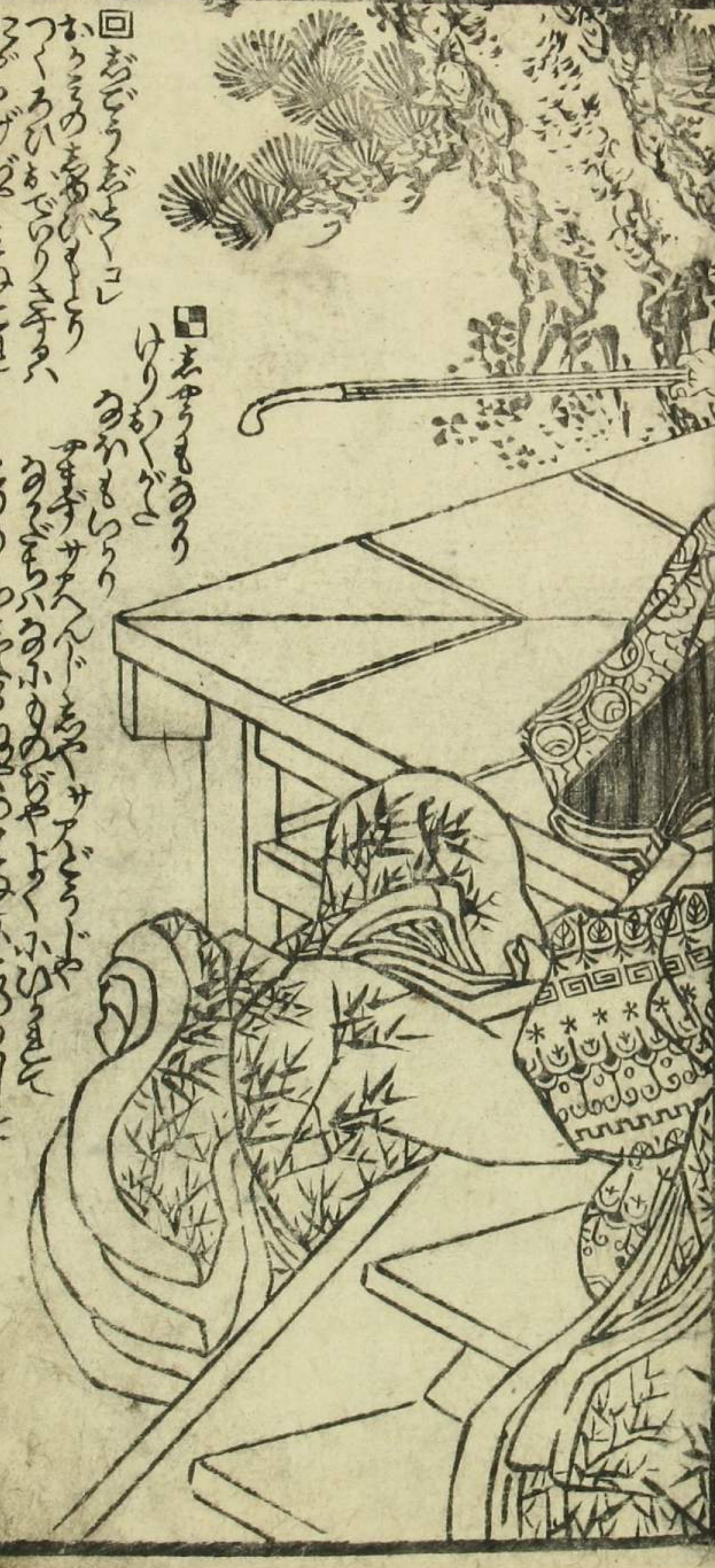




おたけのちいさなあひのうい  
 めのうをさきあひのうい  
 どうちやち門あせうのうい  
 せんとうをうとのあまきんけい  
 せんずとあひのうい  
 うんぞる小きも人もあまきんけい  
 うあひのうい  
 あまきんけい  
 らんぞのうい  
 うい

おたけのちいさなあひのうい  
 あまきんけい  
 やのうい  
 うい  
 うい  
 うい

けのあまきんけい  
 ちいさなあひのうい



おたけのちいさなあひのうい  
 つくろひのうい  
 たがうげちやあひのうい  
 人のつま目をねきんけい  
 あまきんけい  
 あまきんけい  
 ひやあせうのうい  
 ちいさなあひのうい

おたけのちいさなあひのうい  
 あまきんけい  
 やのうい  
 うい  
 うい  
 うい

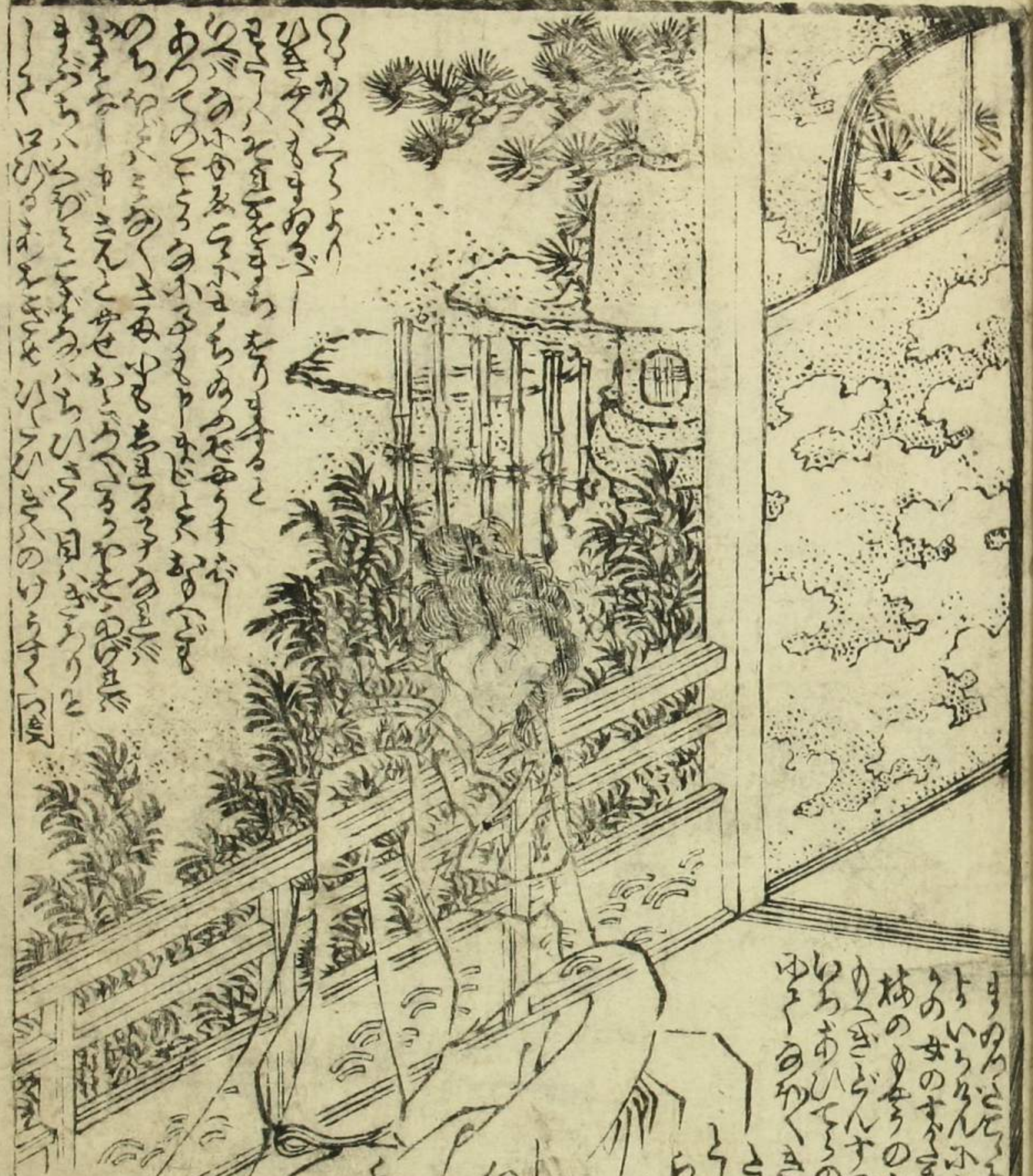


あつちの... 女中... 仁徳... 平次... 手紙... 井... 平次... 手紙... 井... 平次... 手紙... 井...

おとまりの... 平次... 手紙... 井... 平次... 手紙... 井... 平次... 手紙... 井... 平次... 手紙... 井... 平次... 手紙... 井...

あつちの... 女中... 仁徳... 平次... 手紙... 井... 平次... 手紙... 井... 平次... 手紙... 井... 平次... 手紙... 井...

おとまりの... 平次... 手紙... 井... 平次... 手紙... 井... 平次... 手紙... 井... 平次... 手紙... 井... 平次... 手紙... 井... 平次... 手紙... 井...



Vertical Japanese text on the left side of the top illustration, likely a scene description or dialogue.

Vertical Japanese text on the left side of the bottom illustration, likely a scene description or dialogue.



Vertical Japanese text on the right side of the top illustration, likely a scene description or dialogue.

Vertical Japanese text on the right side of the bottom illustration, likely a scene description or dialogue.

五雲亭貞秀画

林屋正藏作

春

舞



金川

下

貞秀画

貞秀画正藏作

貞秀画の妙處を論ずるに  
貞秀の画は、人物の神態を  
よく捉へて描き出す。尤も  
この舞の姿は、流れるやうな  
動きが、筆の運びに巧みに  
表現されてゐる。背景の雲は  
墨の濃淡で、遠近感を演出  
して、画面の奥行きを感ぜ  
させる。花の散りゆく姿も、  
細かな筆致で、優雅な趣を  
添へてゐる。貞秀の画風は、  
その洗練と繊細さから、後  
世に大きな影響を及ぼした  
と見られる。



この舞の姿は、流れるやうな動きが、筆の運びに巧みに表現されてゐる。背景の雲は墨の濃淡で、遠近感を演出して、画面の奥行きを感ぜさせる。花の散りゆく姿も、細かな筆致で、優雅な趣を添へてゐる。貞秀の画風は、その洗練と繊細さから、後世に大きな影響を及ぼしたと見られる。

怪談春雛島

林屋正藏作 全四冊

五雲亭貞秀画 下三巻

天保九歳

戌春發兌

福川堂販

Handwritten text in vertical columns, likely commentary or a preface, including the character '三' at the top.





あびるちかた  
あびるちかた  
あびるちかた  
あびるちかた

あびるちかた  
あびるちかた  
あびるちかた  
あびるちかた

あびるちかた  
あびるちかた  
あびるちかた  
あびるちかた

あびるちかた

あびるちかた



あびるちかた  
あびるちかた  
あびるちかた  
あびるちかた

あびるちかた  
あびるちかた  
あびるちかた  
あびるちかた

あびるちかた  
あびるちかた  
あびるちかた  
あびるちかた

あびるちかた  
あびるちかた  
あびるちかた  
あびるちかた

あびるちかた

あびるちかた





あつり  
あつり  
あつり

あつり  
あつり  
あつり

あつり  
あつり  
あつり



あつり  
あつり  
あつり

あつり  
あつり  
あつり





Handwritten Japanese text at the top of the left page, likely a preface or introductory chapter, written in a vertical column.

Handwritten Japanese text at the bottom of the left page, continuing the narrative or commentary.



Handwritten Japanese text at the top of the right page, continuing the narrative.

Handwritten Japanese text at the bottom of the right page, continuing the narrative.







松あめ平がら...  
 女も甲もさか...  
 世をさりし...  
 中町...  
 せん人...  
 つの...  
 うの...  
 こ...  
 り...  
 くの...  
 り...  
 の...  
 ま...  
 ひ...  
 の...  
 ま...  
 ひ...  
 の...  
 ま...  
 ひ...  
 の...



松あめ平がら...  
 女も甲もさか...  
 世をさりし...  
 中町...  
 せん人...  
 つの...  
 うの...  
 こ...  
 り...  
 くの...  
 り...  
 の...  
 ま...  
 ひ...  
 の...  
 ま...  
 ひ...  
 の...  
 ま...  
 ひ...  
 の...





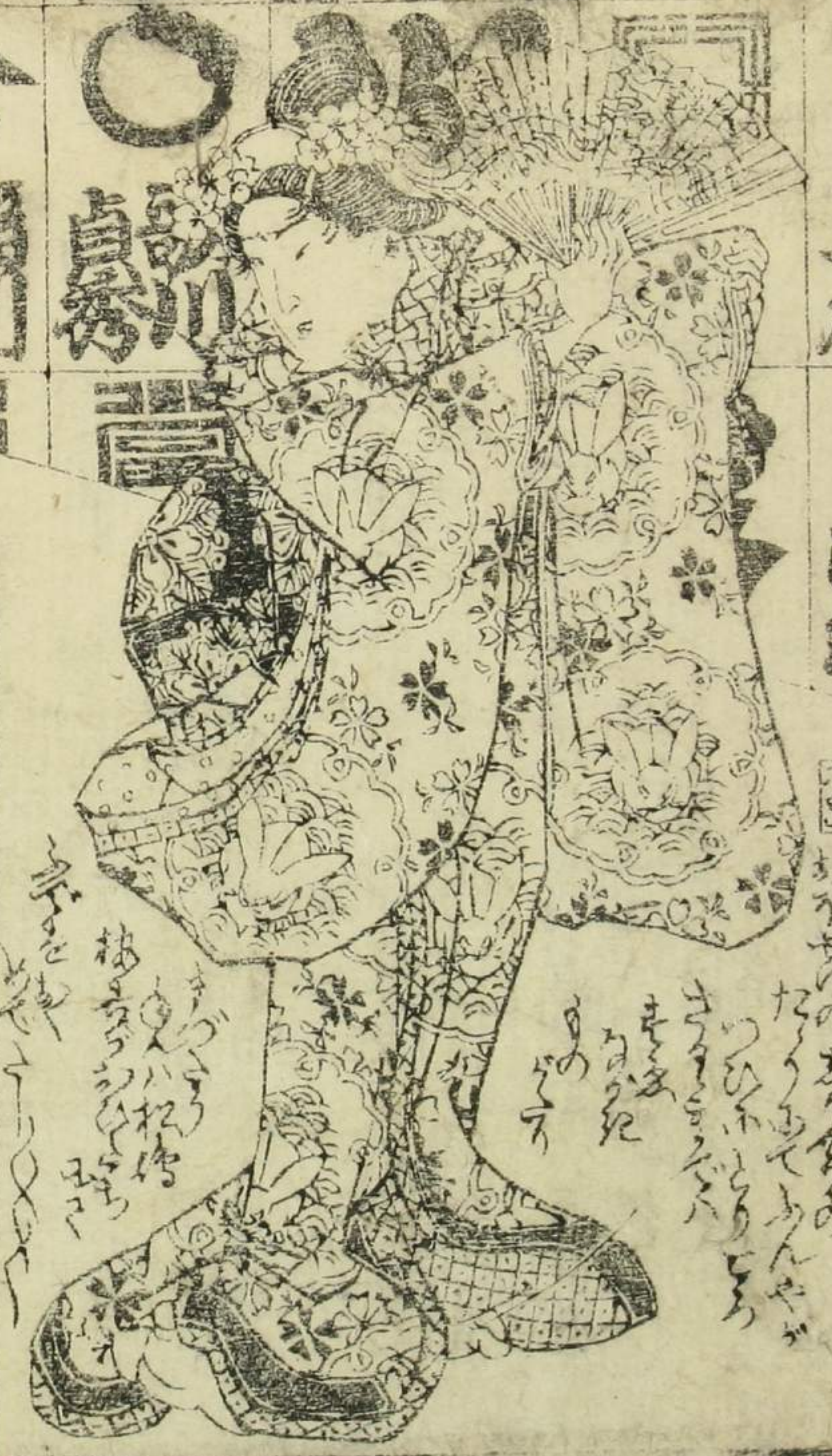
子新板

川口版

上

大 吉	藏 流	天 保	林 屋	成 春
全 藏	貞 秀	正 藏	正 藏	正 藏
川 口	川 口	川 口	川 口	川 口

五雲亭貞秀画



林屋正藏作

あやせいのあやせいの  
たうあそあんの  
つひあそあんの  
あそあんの  
あそあんの  
あそあんの



袖崎文弥 松嶋梅吉 怪談春雜鳥

二編 上之卷

林屋正藏戲作 香蝶櫻國貞画 福川堂梓

天保十一庚子歲孟陽發版

物の本の怪談 唐山神記有り。怪神録の中の中の日本の  
正保の昔々異國より来船前燈新話の牡丹燈大壇を色情在  
怪談深い趣向を淺井了意が翻譯たる御伽婢子。夫も  
元禄初の頃今から觀ると百有餘年近いといへども文化元甲  
子年の夏狂言。河原崎より音羽屋が初て芝居で勤まると  
笑話の披講仁のて置僕風斗思ひ附暗闇燭臺燒耐火  
あつて元祖と書看久しく仕當て五拾年来。そと版元附込で  
編書て暮の鐘今の時好小逢魔の時。お多くと勸られ初編と  
て亦今年二編を書けと西主そごめく天狗の仲間人家業渡世の咄の  
間七本相の本の本也。此物語を書き者。林屋の正藏坊  
天保十一庚子年陽春發兌

東都咄の作者林屋正藏



美艶仙女香  
黒油美香  
ありありし  
はあはあ  
はあはあ



めいめい  
そのうらなひ  
あはれ  
あはれ  
あはれ



松嶋梅吉

松嶋園平

堅笑語  
裕説紙の男難  
神助皇后三韓退治の  
時の御像女雑  
應神天皇  
談生の  
武内  
大臣が証  
字を食へると

巻て抱せり  
像よりと云人  
有るが左様でも  
有るか但  
袖あり



城本屋の娘

竹成筆大文

いづれか  
 外  
 内  
 心  
 如  
 善  
 薩  
 又  
 如  
 夜  
 叉

外面如善薩  
 内心如夜叉

袖崎文弥

白木の駒吉

婦人長友  
 於才



二下りの  
 君  
 さき  
 ぐ  
 花  
 笠  
 君  
 さき  
 ぐ  
 花  
 笠

深尾清十郎

但馬屋の娘  
 於夏

凡人八歳則自王公以下至於庶人之子及婦皆

入小学ト云フ也其年十歳以下は其の親の教へて

あはれもやめて其を専らせしめしむる事あり

今人の教へたるものとあはれもやめて其を専ら

せんすれば其の事ありはとちみちの事あり

あつて又は其の事ありはとちみちの事あり

その事ありはとちみちの事あり

その事ありはとちみちの事あり

その事ありはとちみちの事あり

その事ありはとちみちの事あり

その事ありはとちみちの事あり

その事ありはとちみちの事あり



凡人八歳則自王公以下至於庶人之子及婦皆

入小学ト云フ也其年十歳以下は其の親の教へて

あはれもやめて其を専らせしめしむる事あり

今人の教へたるものとあはれもやめて其を専ら

せんすれば其の事ありはとちみちの事あり

あつて又は其の事ありはとちみちの事あり

その事ありはとちみちの事あり

その事ありはとちみちの事あり

その事ありはとちみちの事あり

その事ありはとちみちの事あり

その事ありはとちみちの事あり

その事ありはとちみちの事あり

雅

日



文孫世とある  
こ生をといふ

凡人八歳則自王公以下至於庶人之子及婦皆

入小学ト云フ也其年十歳以下は其の親の教へて

あはれもやめて其を専らせしめしむる事あり

今人の教へたるものとあはれもやめて其を専ら

せんすれば其の事ありはとちみちの事あり

あつて又は其の事ありはとちみちの事あり

その事ありはとちみちの事あり

その事ありはとちみちの事あり

その事ありはとちみちの事あり

その事ありはとちみちの事あり

その事ありはとちみちの事あり

その事ありはとちみちの事あり

その事ありはとちみちの事あり

その事ありはとちみちの事あり

その事ありはとちみちの事あり

雅

日

その日をもち...  
三月の下旬...  
あつちの...  
ねんご...  
あつちの...  
三月の下旬...  
あつちの...  
ねんご...  
あつちの...



あつちの...  
ねんご...  
あつちの...  
ねんご...  
あつちの...  
ねんご...

あつちの...  
ねんご...  
あつちの...  
ねんご...  
あつちの...  
ねんご...



あつちの...  
ねんご...  
あつちの...  
ねんご...  
あつちの...  
ねんご...



つきのせぐの  
 中のはあひの  
 とをあしれ  
 けるその内  
 あひくま  
 やとちてち  
 りあふふ  
 むろの大せの  
 あふあけの  
 るはよよる  
 つれはさびる  
 むれはささ  
 りるもの  
 むあひくま  
 りあふふ  
 むろの大せの  
 あふあけの  
 るはよよる  
 つれはさびる  
 むれはささ  
 りるもの

あふあけの  
 るはよよる  
 つれはさびる  
 むれはささ  
 りるもの  
 あふあけの  
 るはよよる  
 つれはさびる  
 むれはささ  
 りるもの  
 あふあけの  
 るはよよる  
 つれはさびる  
 むれはささ  
 りるもの



あふあけの  
 るはよよる  
 つれはさびる  
 むれはささ  
 りるもの  
 あふあけの  
 るはよよる  
 つれはさびる  
 むれはささ  
 りるもの  
 あふあけの  
 るはよよる  
 つれはさびる  
 むれはささ  
 りるもの

あふあけの  
 るはよよる  
 つれはさびる  
 むれはささ  
 りるもの  
 あふあけの  
 るはよよる  
 つれはさびる  
 むれはささ  
 りるもの



三つあるうちの二つは人の身なりをきいてそのうちの一は  
 二つは人の心や内面をきいてそのうちの一は  
 三つは人の徳や節度をきいてそのうちの一は  
 ... (vertical text continues)



... (vertical text) ...  
 ... (vertical text) ...



... (vertical text) ...  
 ... (vertical text) ...  
 ... (vertical text) ...

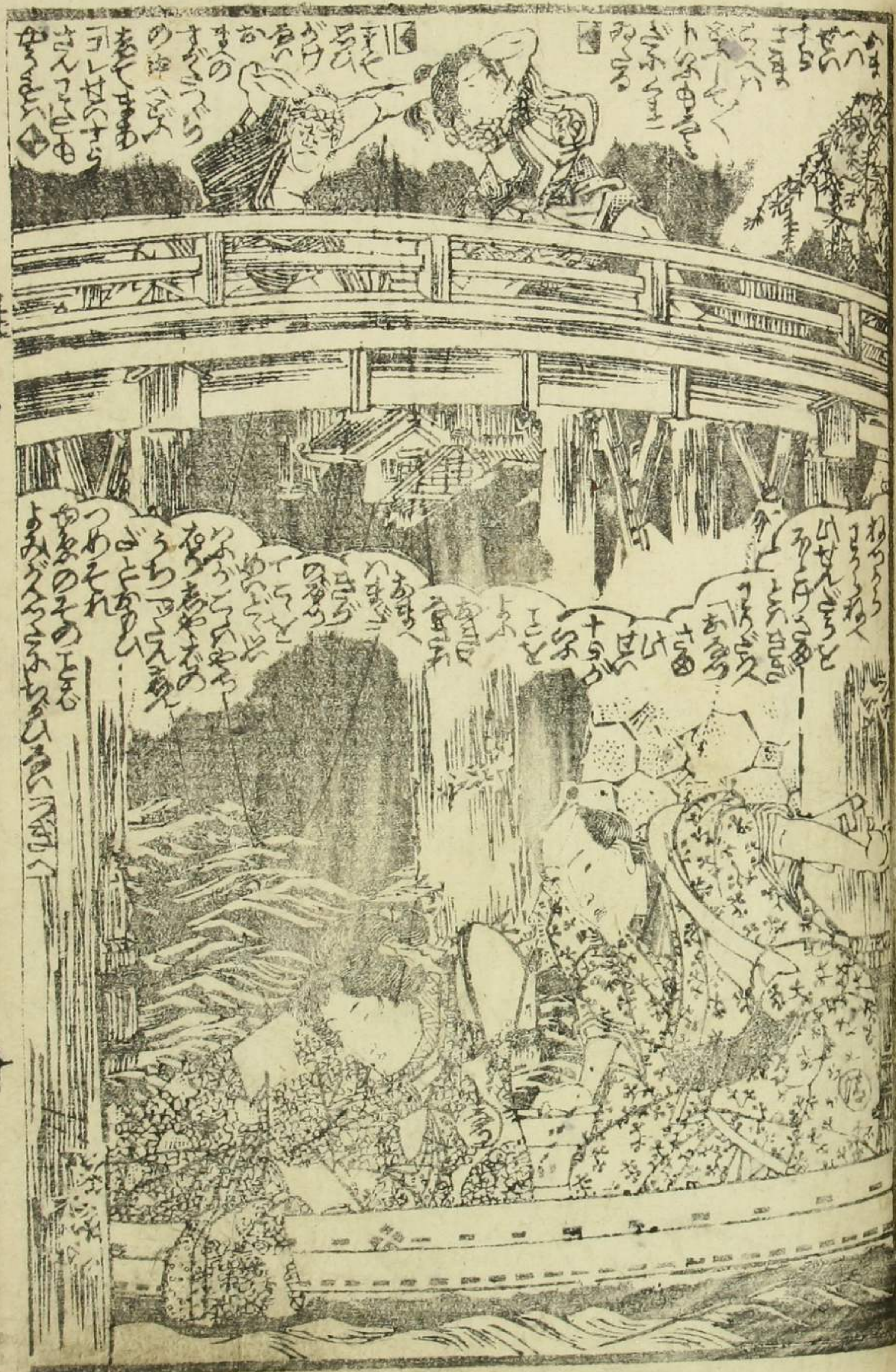
... (vertical text) ...  
 ... (vertical text) ...  
 ... (vertical text) ...



... (vertical text) ...  
 ... (vertical text) ...  
 ... (vertical text) ...







あまのついでに  
さしつかへなく  
あまのついでに  
さしつかへなく  
あまのついでに  
さしつかへなく  
あまのついでに  
さしつかへなく  
あまのついでに  
さしつかへなく

あまのついでに  
さしつかへなく  
あまのついでに  
さしつかへなく  
あまのついでに  
さしつかへなく  
あまのついでに  
さしつかへなく  
あまのついでに  
さしつかへなく



あまのついでに  
さしつかへなく  
あまのついでに  
さしつかへなく  
あまのついでに  
さしつかへなく  
あまのついでに  
さしつかへなく  
あまのついでに  
さしつかへなく

あまのついでに  
さしつかへなく  
あまのついでに  
さしつかへなく  
あまのついでに  
さしつかへなく  
あまのついでに  
さしつかへなく  
あまのついでに  
さしつかへなく

あまのついでに

あまのついでに

香蝶樓國貞画  
林屋正藏作

怪談 春雛鳥 後編



下

この世のついでに...  
 春雛鳥の怪談...  
 月夜に...  
 春雛鳥の怪談...  
 月夜に...



國貞画正藏作

この世のついでに...  
 春雛鳥の怪談...  
 月夜に...



香蝶樓國貞画 川口版

春雛鳥編下巻

林屋正藏作

庚子春 新刻





住

十一



住

十二



此の世に於ては  
 女は男に勝る  
 男は女に負ける  
 此の世に於ては  
 女は男に勝る  
 男は女に負ける  
 此の世に於ては  
 女は男に勝る  
 男は女に負ける



此の世に於ては  
 女は男に勝る  
 男は女に負ける  
 此の世に於ては  
 女は男に勝る  
 男は女に負ける  
 此の世に於ては  
 女は男に勝る  
 男は女に負ける

十五

此の世に於ては  
 女は男に勝る  
 男は女に負ける  
 此の世に於ては  
 女は男に勝る  
 男は女に負ける



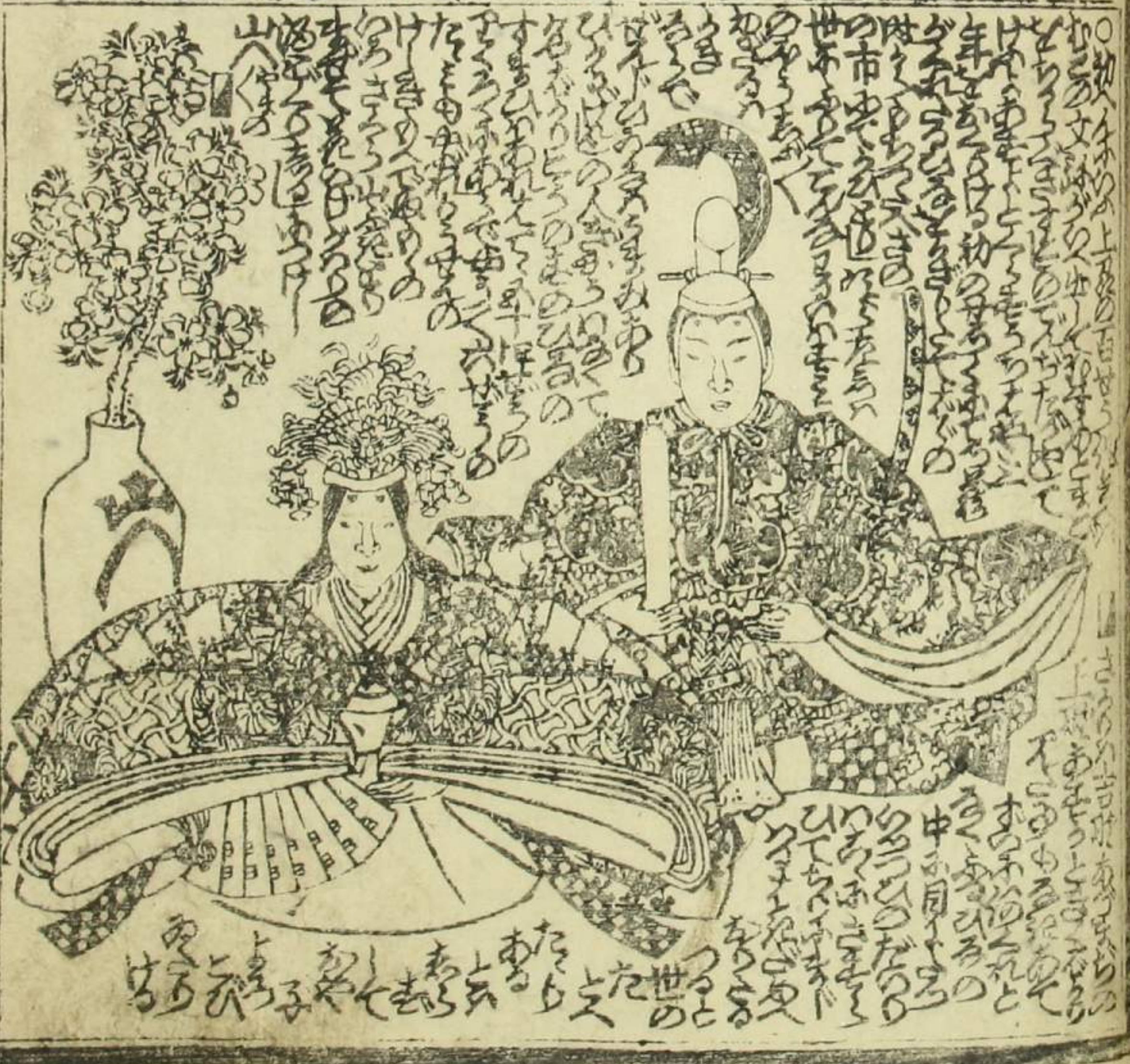
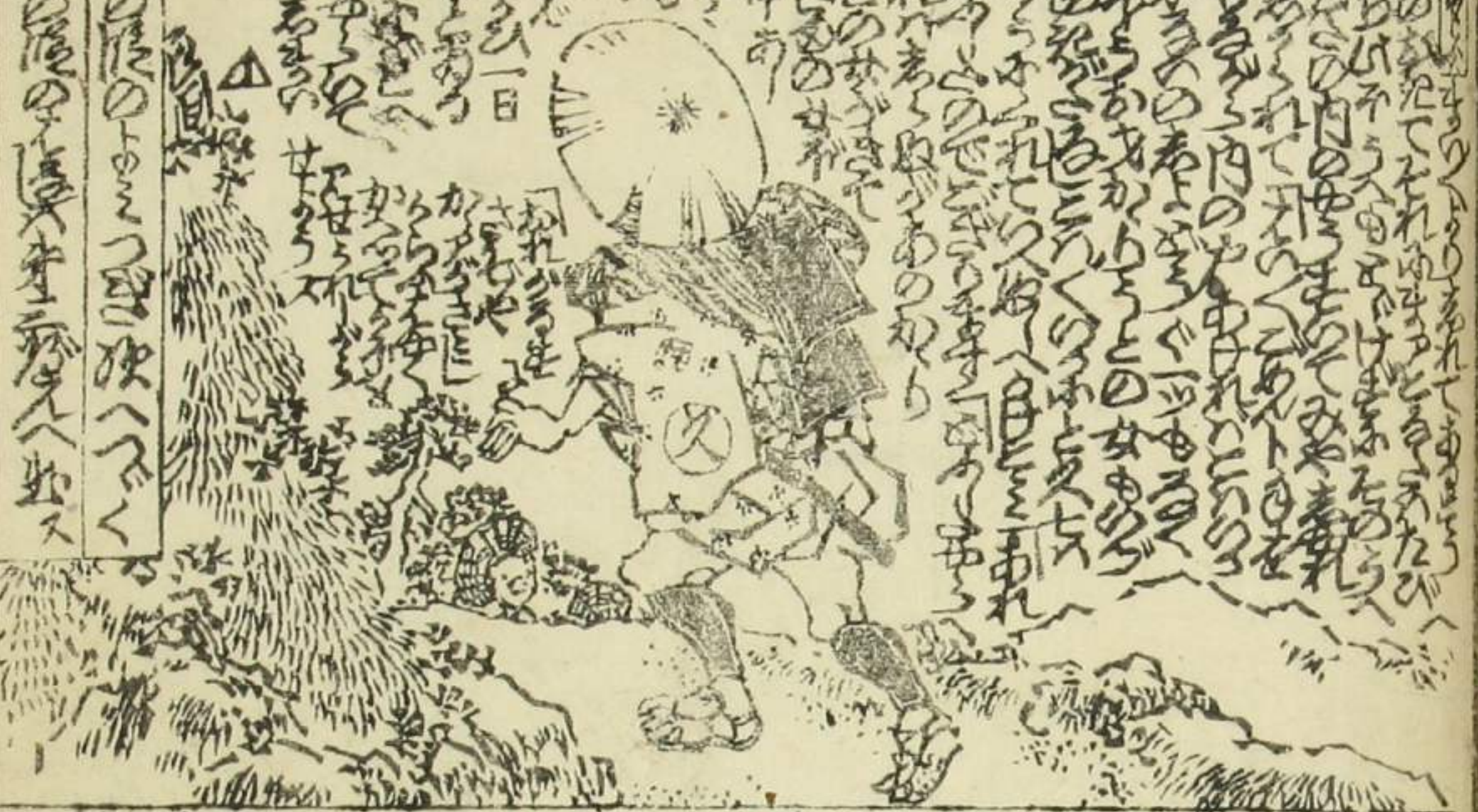
此の世に於ては  
 女は男に勝る  
 男は女に負ける  
 此の世に於ては  
 女は男に勝る  
 男は女に負ける

若  
 あり  
 酒





上の段のついでへ行く  
下の段のついでへ行く



雑

久七の夜と日本風百鬼  
不意の宵にふりかへて  
あつたふりかへたふりかへ  
ちてふりかへたふりかへて  
あつたふりかへたふりかへ  
あつたふりかへたふりかへ  
あつたふりかへたふりかへ



雑









怪談 春雛鳥編

丑新板

川口版

上

松橋井原の上方に細路文彦と云ふ者あり又  
 かまらざるを自らそのこまをたるとするものあり  
 ゑんやうしてこまのつらさのゆゑにこまをたると  
 するものあり  
 ○こま又あるを廿十のつらさ  
 らるるをたるとのこまは母の  
 ざのあつたるあるあつたへ  
 ともびつたりのこと  
 人のるまひあつたりのこと  
 さつりのいふあつたりのこと  
 めむむのこまも  
 ねむむのこまへ  
 又のこまの  
 ゑんやうかと云ふ  
 えいぶと云ふ  
 月目をあつたると云ふ  
 うち一人りのあつたりのこまのつらさ  
 まさるるつらさと云ふ  
 めむむのこまも

それゆゑ  
 いまも  
 めむむ  
 あつたりの  
 こまを  
 たると  
 するもの  
 あり  
 三つたりの  
 あつたりの  
 こまを  
 たると  
 するもの  
 あり  
 まさるるつらさ  
 のゆゑに

林屋正藏作



香蝶樓國貞画

香蝶樓國貞画  
 のこま  
 のつらさ  
 のゆゑに  
 こまを  
 たると  
 するもの  
 あり

春純

雛鳥三編

上の巻

林屋正藏作

香蝶樓國貞画

辛丑春

新版

福川堂梓



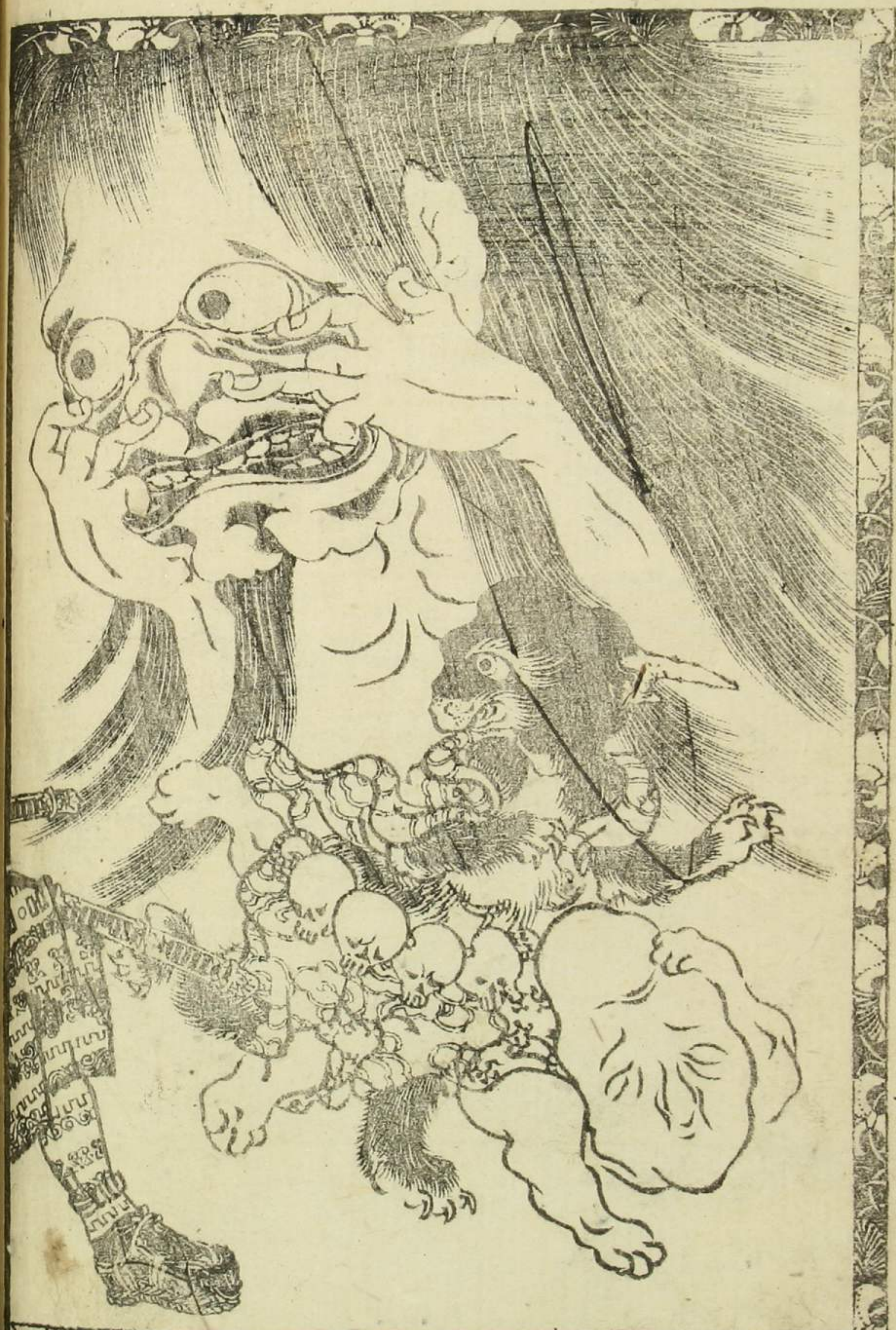
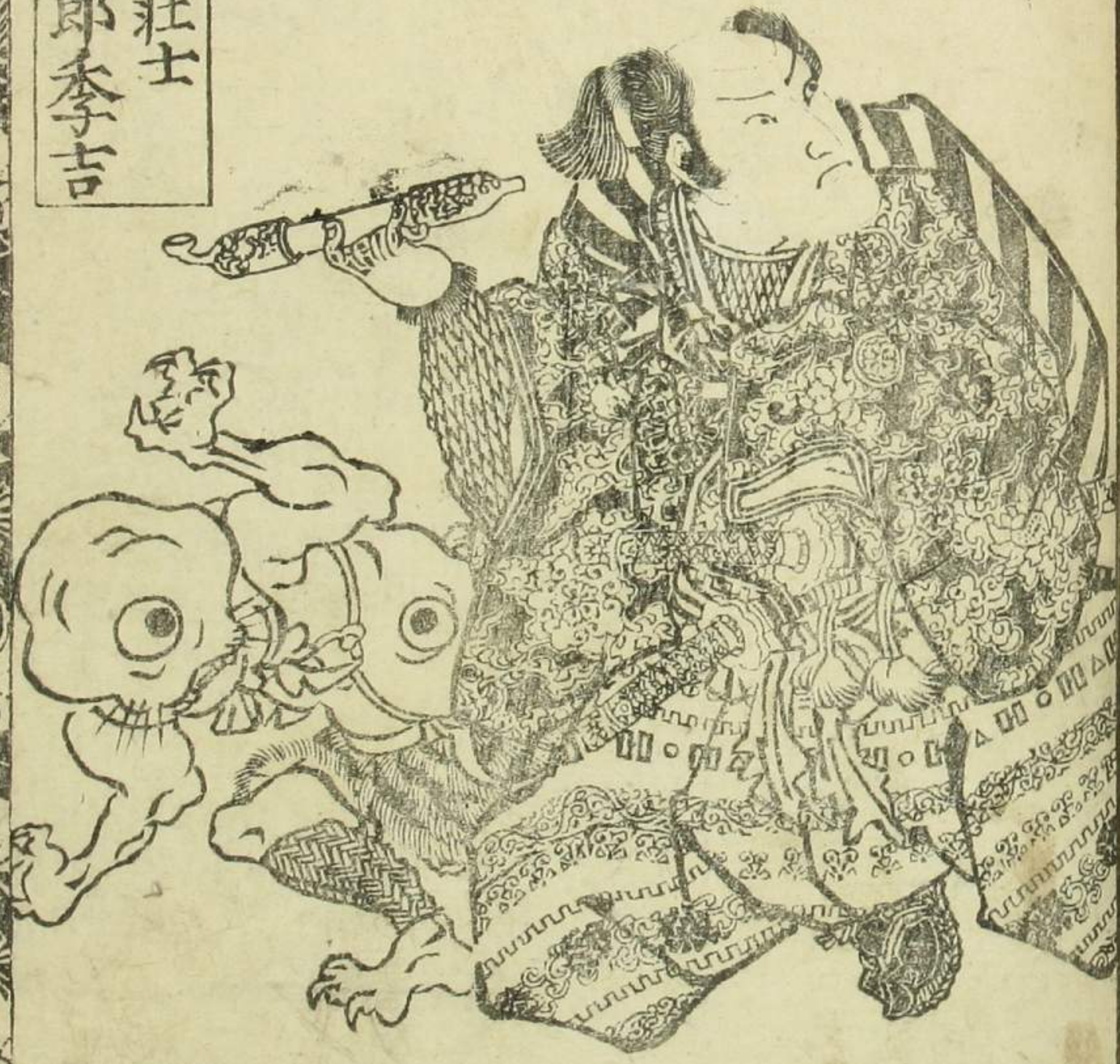
明<sup>あき</sup>き<sup>し</sup>と<sup>ろ</sup>一<sup>いち</sup>番<sup>ばん</sup>鶏<sup>けい</sup>も<sup>も</sup>け<sup>け</sup>の<sup>の</sup>と<sup>と</sup>う<sup>う</sup>と<sup>と</sup>。圓<sup>えん</sup>ふ<sup>ふ</sup>萬<sup>まん</sup>歳<sup>さい</sup>支<sup>し</sup>若<sup>じやく</sup>分<sup>ぶん</sup>。愛<sup>あい</sup>敬<sup>けい</sup>あり<sup>り</sup>ける<sup>る</sup>。可<sup>か</sup>笑<sup>せう</sup>身<sup>み</sup>は<sup>は</sup>山<sup>さん</sup>も<sup>も</sup>笑<sup>せう</sup>ふ<sup>ふ</sup>。皆<sup>みな</sup>々<sup>々</sup>と<sup>と</sup>。爰<sup>こゝ</sup>に<sup>に</sup>下<sup>か</sup>駄<sup>だ</sup>々<sup>々</sup>と<sup>と</sup>。雪<sup>ゆき</sup>解<sup>げ</sup>ふ<sup>ふ</sup>。ぬ<sup>ぬ</sup>く<sup>く</sup>す<sup>す</sup>。賣<sup>う</sup>ひ<sup>ひ</sup>魁<sup>けい</sup>ハ<sup>ハ</sup>御<sup>ご</sup>評<sup>へい</sup>判<sup>はん</sup>を<sup>を</sup>六<sup>ろく</sup>鳥<sup>ちう</sup>が<sup>が</sup>鳴<sup>な</sup>く<sup>く</sup>。東<sup>とう</sup>名<sup>な</sup>物<sup>ぶつ</sup>合<sup>あ</sup>巻<sup>まき</sup>物<sup>ぶつ</sup>作<sup>さく</sup>者<sup>しや</sup>ハ<sup>ハ</sup>野<sup>や</sup>鶯<sup>う</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>ど<sup>ど</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>か<sup>か</sup>の<sup>の</sup>高<sup>たか</sup>く<sup>く</sup>ハ<sup>ハ</sup>こ<sup>こ</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>梅<sup>うめ</sup>が<sup>が</sup>枝<sup>え</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>は<sup>は</sup>二<sup>に</sup>千<sup>せん</sup>か<sup>か</sup>こ<sup>こ</sup>ハ<sup>ハ</sup>二<sup>に</sup>千<sup>せん</sup>。賣<sup>う</sup>ひ<sup>ひ</sup>さ<sup>さ</sup>る<sup>る</sup>者<sup>しや</sup>ハ<sup>ハ</sup>萬<sup>まん</sup>々<sup>々</sup>部<sup>ぶ</sup>と<sup>と</sup>。欲<sup>よく</sup>張<sup>ちやう</sup>は<sup>は</sup>た<sup>た</sup>た<sup>た</sup>ら<sup>ら</sup>ん<sup>ん</sup>と<sup>と</sup>め<sup>め</sup>。ゆ<sup>ゆ</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>る<sup>る</sup>所<sup>しよ</sup>初<sup>はつ</sup>曆<sup>りき</sup>當<sup>あた</sup>る<sup>る</sup>ハ<sup>ハ</sup>辛<sup>しん</sup>酉<sup>う</sup>と<sup>と</sup>丑<sup>う</sup>の<sup>の</sup>い<sup>い</sup>ハ<sup>ハ</sup>武<sup>ぶ</sup>士<sup>し</sup>く<sup>く</sup>敵<sup>てき</sup>を<sup>を</sup>討<sup>うち</sup>て<sup>て</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>。名<sup>な</sup>を<sup>を</sup>萬<sup>まん</sup>天<sup>てん</sup>ハ<sup>ハ</sup>總<sup>そう</sup>角<sup>かく</sup>カ<sup>カ</sup>。御<sup>ご</sup>加<sup>か</sup>草<sup>そう</sup>紙<sup>し</sup>の<sup>の</sup>怪<sup>かい</sup>談<sup>たん</sup>復<sup>ふく</sup>雙<sup>そう</sup>言<sup>げん</sup>及<sup>およ</sup>び<sup>び</sup>た<sup>た</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>筆<sup>ふで</sup>も<sup>も</sup>これ<sup>これ</sup>ハ<sup>ハ</sup>三<sup>さん</sup>編<sup>へん</sup>御<sup>ご</sup>さ<sup>さ</sup>あ<sup>あ</sup>つ<sup>つ</sup>く<sup>く</sup>初<sup>はつ</sup>編<sup>へん</sup>より<sup>より</sup>。由<sup>よし</sup>る<sup>る</sup>淺<sup>せん</sup>と<sup>と</sup>伏<sup>ふく</sup>稟<sup>れい</sup>。

天保十一庚子年正月稿成  
同 十二辛丑年青陽發兌

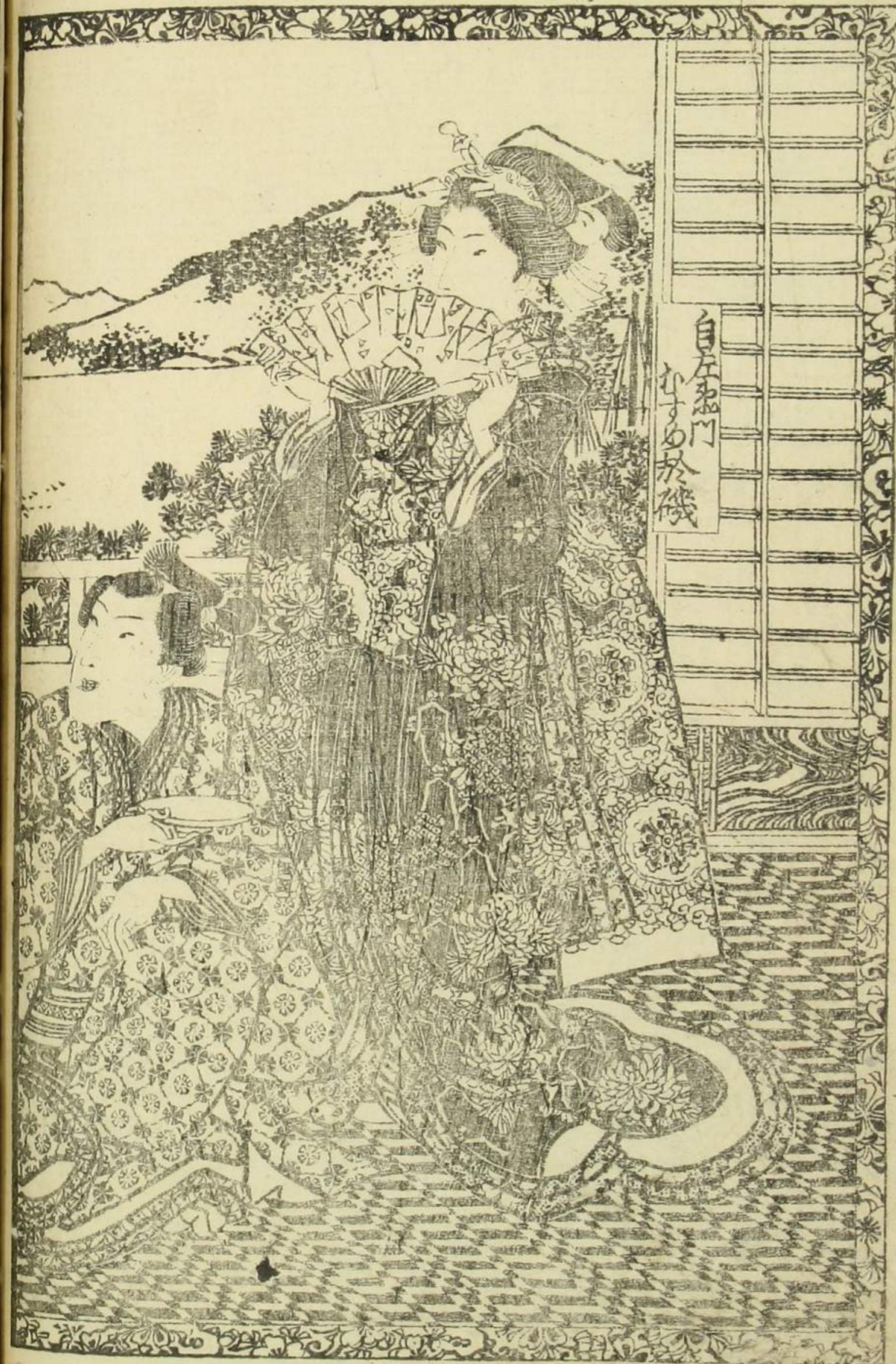
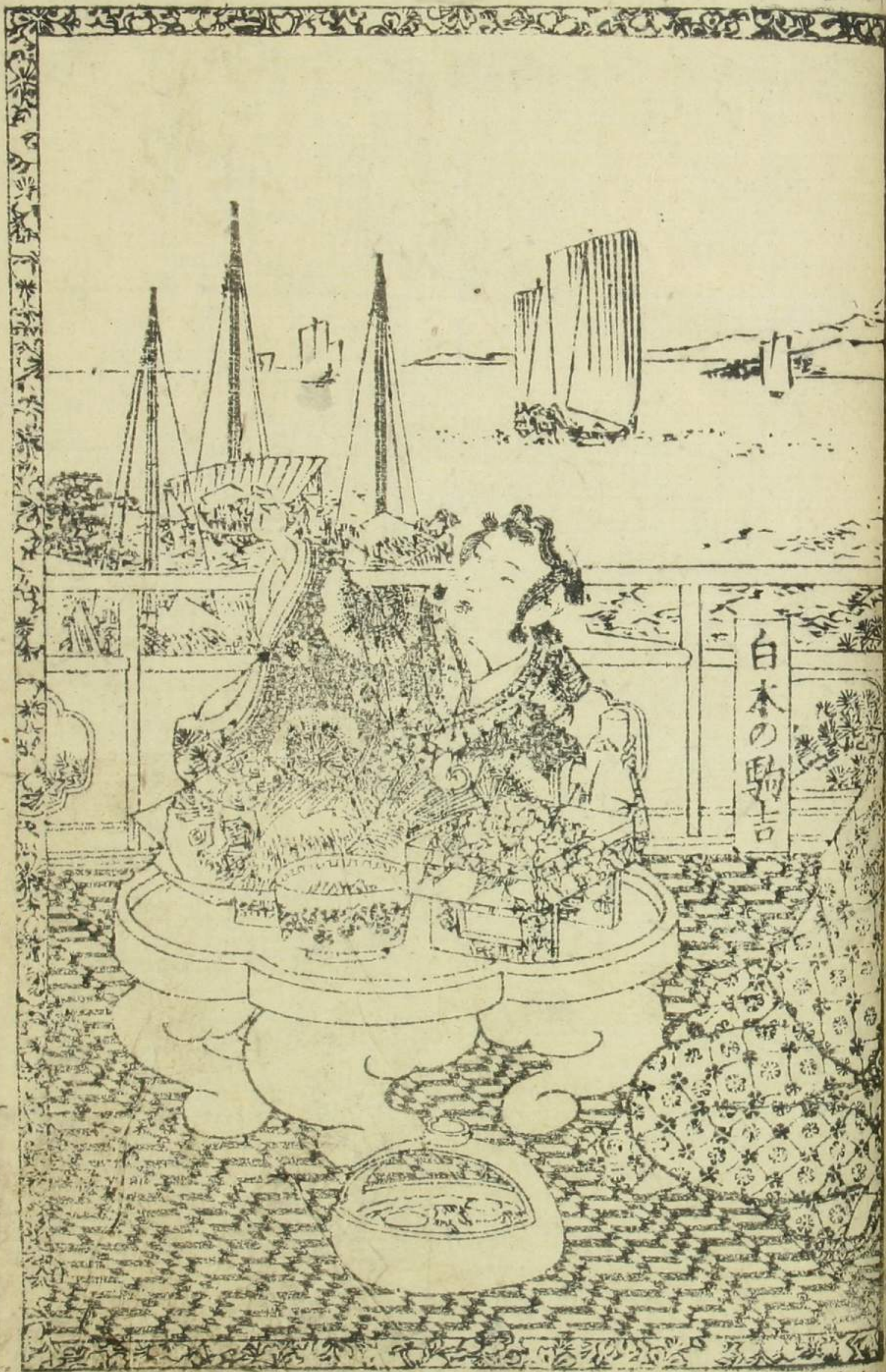
林屋正藏作

武者修行の壯士  
甲斐田原治郎季吉

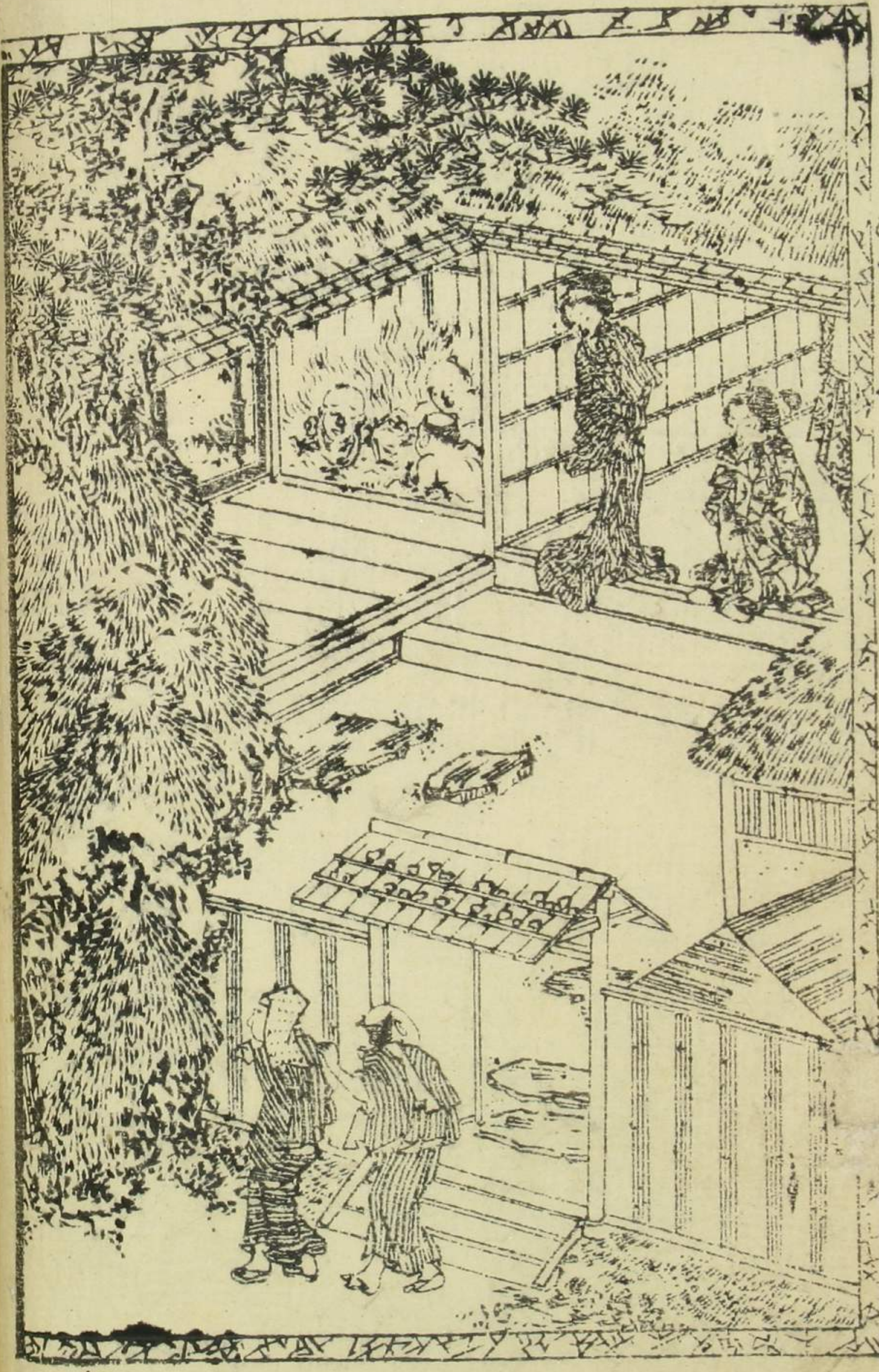
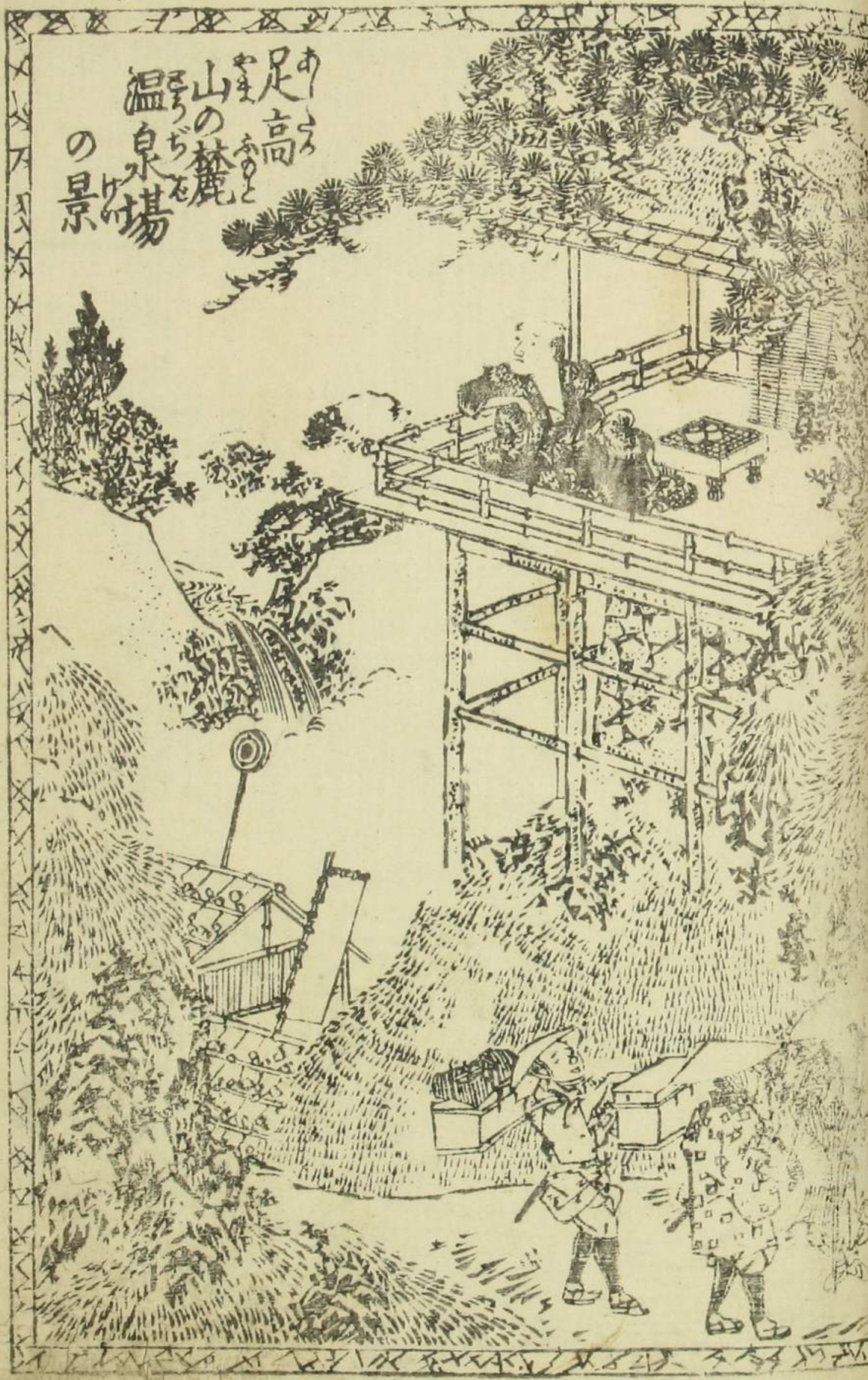
伊豆の國  
天城山の  
古寺の  
怪を視る圖







あしひたの  
高き  
やまの  
麓に  
温泉の  
湯場  
の景





下は...  
 あく又...  
 かく...  
 うる...

上は...  
 一人の...  
 こま...  
 あけ...



才三浦瀆始 發端

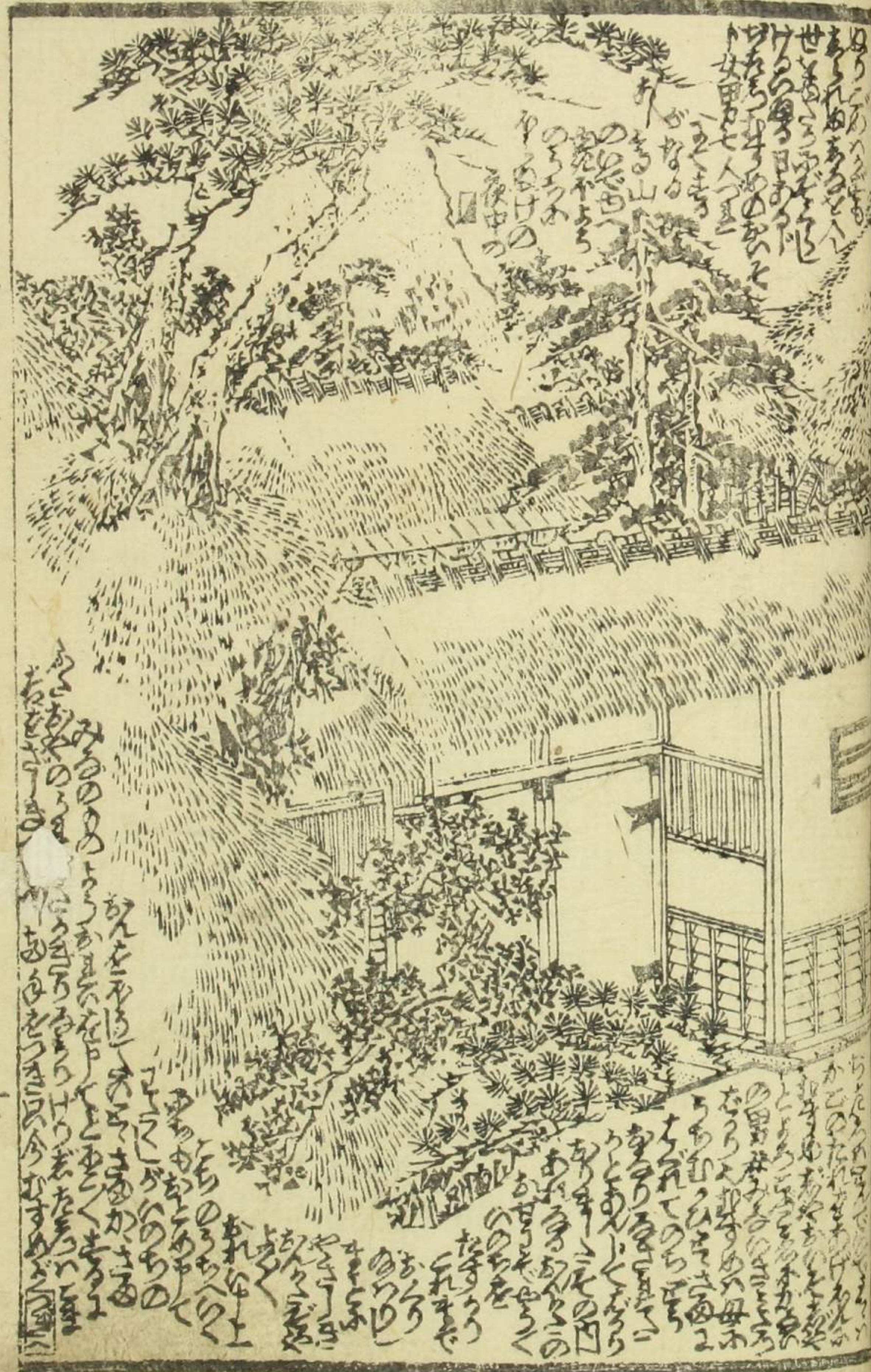
七...  
 山...  
 山...  
 山...  
 山...

何れかおとこにて  
 あつたはれはとて  
 百廿二の山ありて  
 女男ありて  
 とてものありて

何れかおとこにて  
 あつたはれはとて  
 百廿二の山ありて  
 女男ありて  
 とてものありて

何れかおとこにて  
 あつたはれはとて  
 百廿二の山ありて  
 女男ありて  
 とてものありて



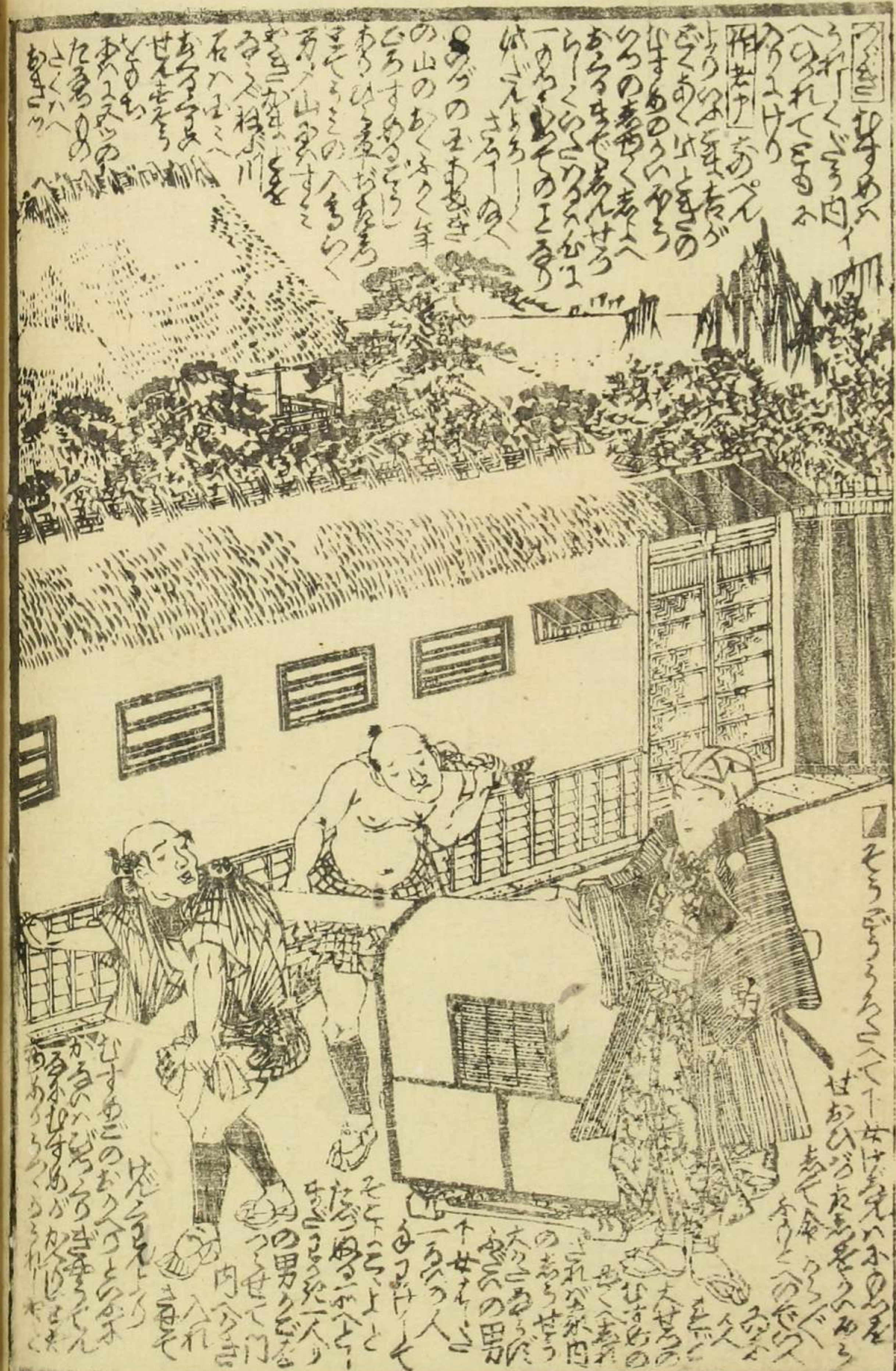


世も... 女...

み... の...

あ... の...

あ... の...  
あ... の...  
あ... の...  
あ... の...  
あ... の...



あ... の...  
あ... の...  
あ... の...  
あ... の...  
あ... の...

ひ...

あ... の...  
あ... の...  
あ... の...  
あ... の...  
あ... の...

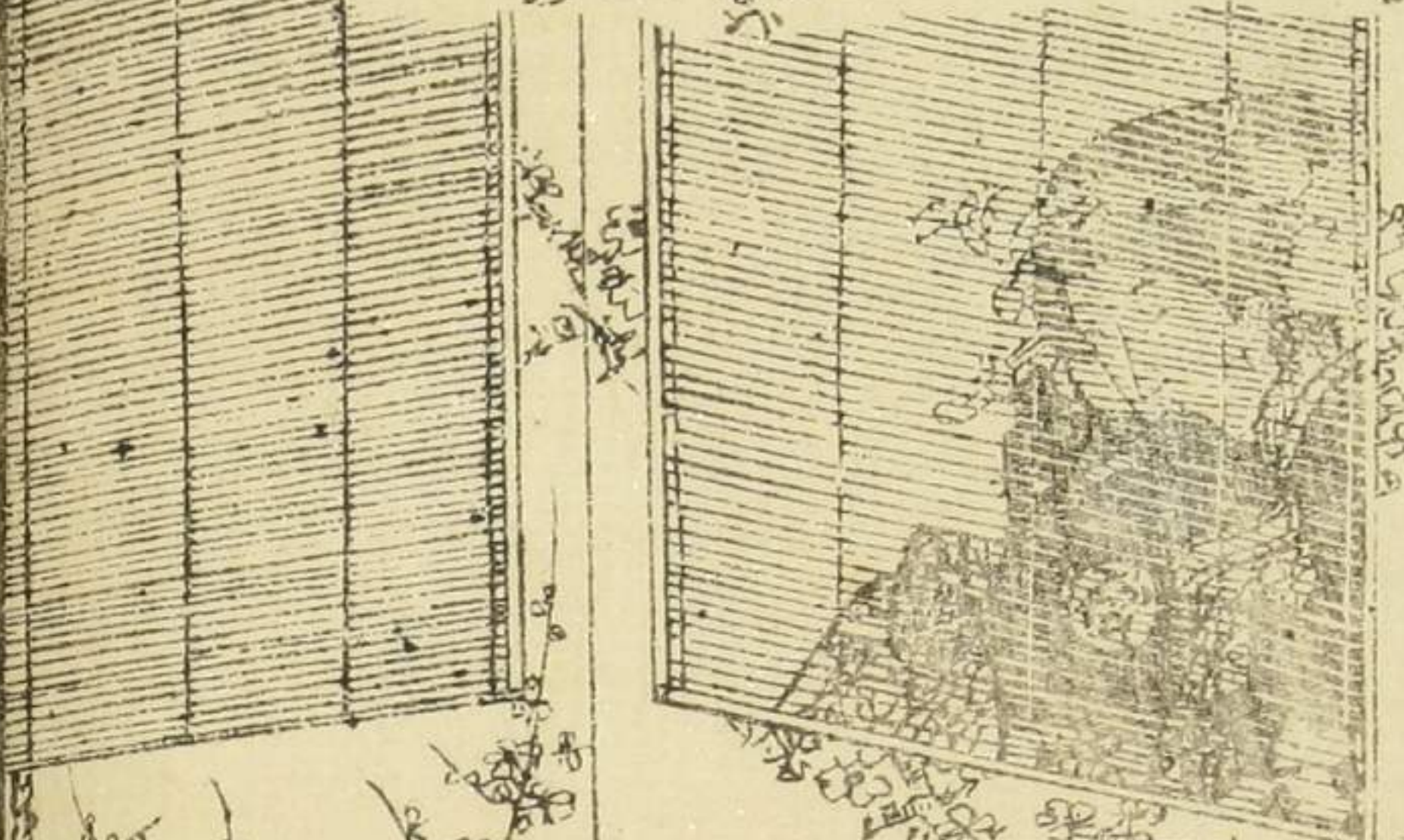
あ... の...  
あ... の...  
あ... の...  
あ... の...  
あ... の...



ついでにさるるうらな  
 うらなをさるるうらな  
 うらなをさるるうらな  
 うらなをさるるうらな  
 うらなをさるるうらな  
 うらなをさるるうらな



ついでにさるるうらな  
 うらなをさるるうらな  
 うらなをさるるうらな  
 うらなをさるるうらな  
 うらなをさるるうらな  
 うらなをさるるうらな



左の上からまはるるうらな  
 うらなをさるるうらな  
 うらなをさるるうらな  
 うらなをさるるうらな  
 うらなをさるるうらな  
 うらなをさるるうらな

ついでにさるるうらな  
 うらなをさるるうらな  
 うらなをさるるうらな  
 うらなをさるるうらな  
 うらなをさるるうらな  
 うらなをさるるうらな



ついでにさるるうらな  
 うらなをさるるうらな  
 うらなをさるるうらな  
 うらなをさるるうらな  
 うらなをさるるうらな  
 うらなをさるるうらな







林屋正藏作  
香蝶樓國貞画

この歌の...

ついでに... かなまてのへびが... だんは... 女... 男... 月... 田... 人... かん...

香蝶樓國貞画  
林屋正藏作



春乃  
 雛  
 三編

林屋正統作  
 香蝶樓園貞画

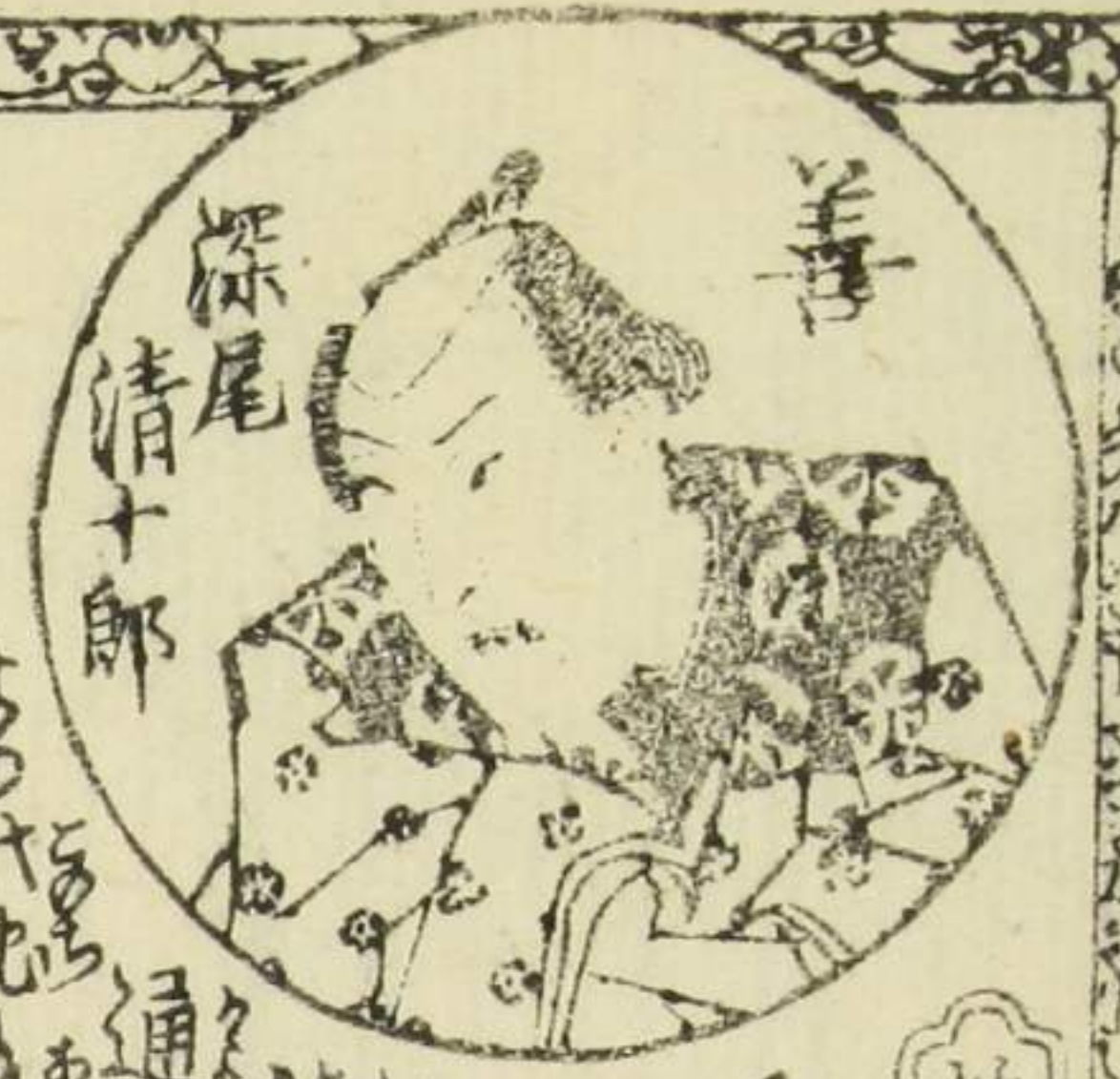
辛丑  
 福川堂梓











此圖の寛政七己卯年東来三和作を宮渡

それ人の性ハ善なるれどもいふ  
 りの心は悪しき道も  
 入るも多し山より雲  
 降りてとて取人由魚目混珠より  
 通つて溝敷をるまはれり

善  
 深尾 清十郎  
 人を善みちしはあまのりけし人なるも  
 悪人なるものあれくかひひより出るも  
 たえはけいふ所の心はあまのりけし  
 仏さまと鬼と出さすと自由自來の心の  
 なるれはあまのりけしと出さぬやうか  
 なるれはあまのりけしと出さぬやうか  
 のへあひ帝釋天王とやく天せうの



俱生神と云ふるはその人と  
 俱生なる名なるべし人の身にあて



悪  
 白木 駒吉  
 一はあの大なる人人間一人生るればはけし  
 善なるも悪なるも心とあまのりけし  
 むせせけいふ所の心はあまのりけし  
 人の善なるも悪なるも心とあまのりけし  
 むせせけいふ所の心はあまのりけし  
 わたしの心は二心と

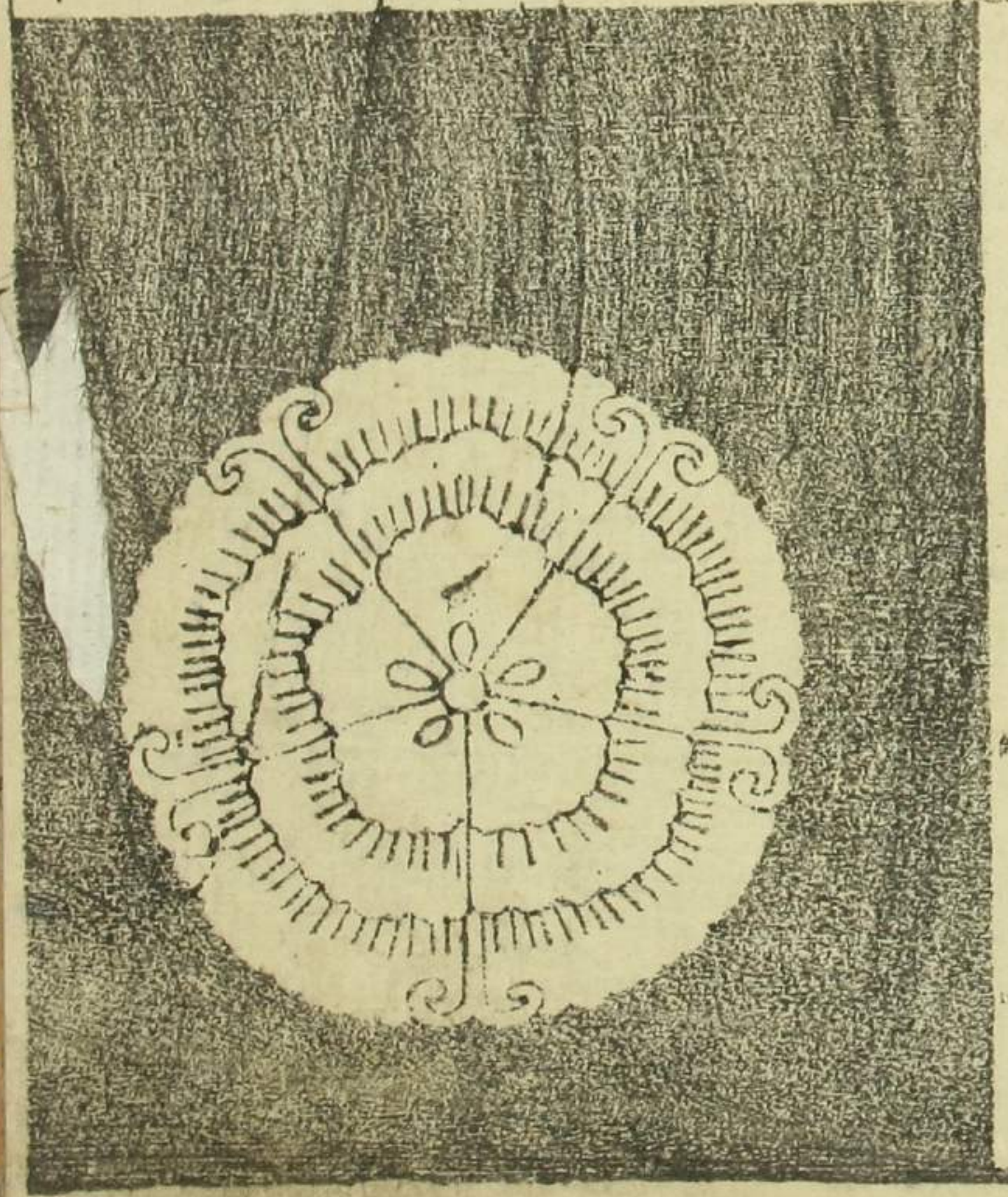


善なるも悪なるも心とあまのりけし  
 白木の駒吉が悪心の天のゆく  
 ととらけてあまのりけし  
 善なるも悪なるも心とあまのりけし

四編目小末女

つぎ大世のけが人を  
 だすりのやまお世とあひ  
 らうあひあひこのたまの  
 たあまをいせせちあわら  
 のみけつとやあまを  
 せのやうなるうらを  
 まま二人りとあひ  
 のこのげんちたまの  
 けいこのたまのけい  
 りとまのたまのけい  
 せとあまのたまのけい  
 たのりたまのけい  
 せのたまのけい  
 のたまのけい  
 さるたまのけい  
 じまのたまのけい  
 それたまのけい  
 あまのたまのけい  
 るたまのけい  
 かのたまのけい  
 あまのたまのけい  
 けいたまのけい  
 えたまのけい  
 がたまのけい  
 るたまのけい  
 けいたまのけい

つぎ大世のけが人を  
 だすりのやまお世とあひ  
 らうあひあひこのたまの  
 たあまをいせせちあわら  
 のみけつとやあまを  
 せのやうなるうらを  
 まま二人りとあひ  
 のこのげんちたまの  
 けいこのたまのけい  
 りとまのたまのけい  
 せとあまのたまのけい  
 たのりたまのけい  
 せのたまのけい  
 のたまのけい  
 さるたまのけい  
 じまのたまのけい  
 それたまのけい  
 あまのたまのけい  
 るたまのけい  
 かのたまのけい  
 あまのたまのけい  
 けいたまのけい  
 えたまのけい  
 がたまのけい  
 るたまのけい  
 けいたまのけい



遠江國渥美之領主  
 濱名冠若為良殿之家之定紋  
 奇南之花







この田が湯をすたます  
おまじりおまじりのやせり  
さうでついでそのやせり  
おののちまをのちまを  
せふふくんとやせりの  
うりやくとつむいせり  
こうふひとつむいせり  
おまじりおまじりのやせり  
さうでついでそのやせり  
おののちまをのちまを  
せふふくんとやせりの  
うりやくとつむいせり  
こうふひとつむいせり

かそれらうとつむいせり  
おまじりおまじりのやせり  
さうでついでそのやせり  
おののちまをのちまを  
せふふくんとやせりの  
うりやくとつむいせり  
こうふひとつむいせり  
おまじりおまじりのやせり  
さうでついでそのやせり  
おののちまをのちまを  
せふふくんとやせりの  
うりやくとつむいせり  
こうふひとつむいせり



あまの  
まじり  
おまじり  
さうで  
おののちま  
せふふく  
うりやく  
こうふひ

かそれらうとつむいせり  
おまじりおまじりのやせり  
さうでついでそのやせり  
おののちまをのちまを  
せふふくんとやせりの  
うりやくとつむいせり  
こうふひとつむいせり  
おまじりおまじりのやせり  
さうでついでそのやせり  
おののちまをのちまを  
せふふくんとやせりの  
うりやくとつむいせり  
こうふひとつむいせり





此の香の入りたるは...  
 さあぐとる所の...  
 香の入りたるは...  
 さあぐとる所の...  
 香の入りたるは...  
 さあぐとる所の...



香蝶樓國貞画  
 林屋正藏作

此の香の入りたるは...  
 さあぐとる所の...  
 香の入りたるは...  
 さあぐとる所の...  
 香の入りたるは...  
 さあぐとる所の...

